

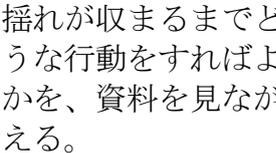
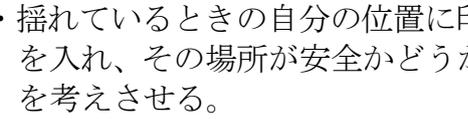
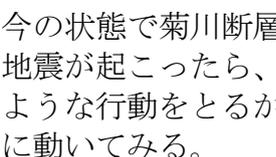
「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学校名	下関市立室津小学校	実施時間	学級活動
-----	-----------	------	------

1 ねらい

- 地震が発生したときの避難行動を、その場の状況に合わせて考えさせるとともに、二次被害に遭わないための方法について考えさせることで、児童自身の危機対応能力を高める。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
<p>1 災害安全KYT資料④を見て、理科の実験中に地震が起きた場合に、どのような危険が発生するかを考える。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の際の避難行動を考えるだけでなく、地震によって発生する理科室特有の危険についても気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険を感じるものについてマーカーで印を付け、どのような危険なのかを言葉で記入させる。児童の発言については、掲示用の資料に全員の意見が分かるように印をしていく。 
<p>2 揺れが収まるまでどのような行動をすればよいのかを、資料を見ながら考える。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れがひどいときには身動きがほとんどとれないことを伝えるとともに、何ができるかを資料の中から読み取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れているときの自分の位置に印を入れ、その場所が安全かどうかを考えさせる。 
<p>3 下関市の地震発生の可能性について、「防災教育テキスト」1ページから読み取る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・菊川断層に着目させ、身近なところに断層があることに気付かせる。 	
<p>教室にいるときに地震が起こったら、まず何をしたらよいか考えてみよう。</p>		
<p>4 今の状態で菊川断層の大地震が起こったら、どのような行動をとるか実際に動いてみる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような行動をとったか、どの場所に避難しているのかを確認させ、それぞれのよさや危険性について話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机の下に隠れることや広い場所に移動することなどが考えられる。

児童が実際に動いた場所

- ・机の下
- ・教室の空いたスペース
- ・教室の真ん中
- ・窓際



- ・「テキスト」2ページ『建物の中にいたとき』で確認させる。



- ・頭の近くに落下物はないか。窓ガラスなど割れる可能性はないかなど、児童の気付きから危険を予知する力を付けさせたい。



学校外で地震が起こったら、どこに避難したらよいか調べよう。

5 学校（室津地区内に限る）で地震に遭ったときにどこに避難するか、「室津地区防災マップ」で確認する。

- ・自分の家の場所に印を付けさせ、一番近い避難場所を確認させる。

6 室津地区防災マップを基に避難場所を家族と一緒に考え、「家族で確認！日頃からの備え」に記入する。

- ・「テキスト」を家庭に持ち帰り、家族と相談しながら家庭での約束（避難場所等）を決めるよう伝える。

- ・避難場所について家族の人と話し合っているかどうかを尋ねる。家族間で話し合っておくことが、二次災害の防止につながることを例示する。2011年の東日本大震災では、東北地方の言い伝え「津波でんでんこ」を守ったことで、津波の被害に遭わなかった例や、逆に家族を探しに行ったために二次災害に遭った例などを挙げる。



- ・後日家庭から「防災教育テキスト」を回収した後、避難場所等の一覧を制作する。